

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 児童文化学科

回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
学科	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化※	発達心理※	初等教育	学部計	
回答数	92	115	99	306	65	53	72	190	496
卒業生数	95	117	106	318	65	54	72	191	509
回答割合	96.8%	98.3%	93.4%	96.2%	100.0%	98.1%	100.0%	99.5%	97.4%

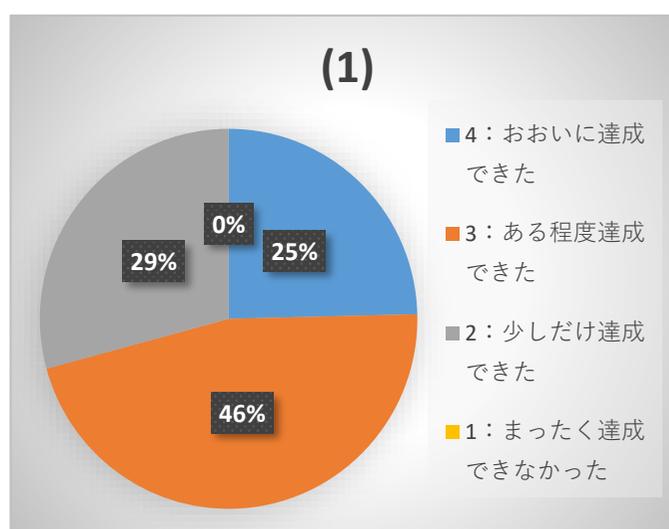
※文学部児童文化学科卒業生1名を含む

卒業生数には2019年9月卒業生、2020年3月卒業生を含む

（1）時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	16
3：ある程度達成できた	30
2：少しだけ達成できた	19
1：まったく達成できなかった	0

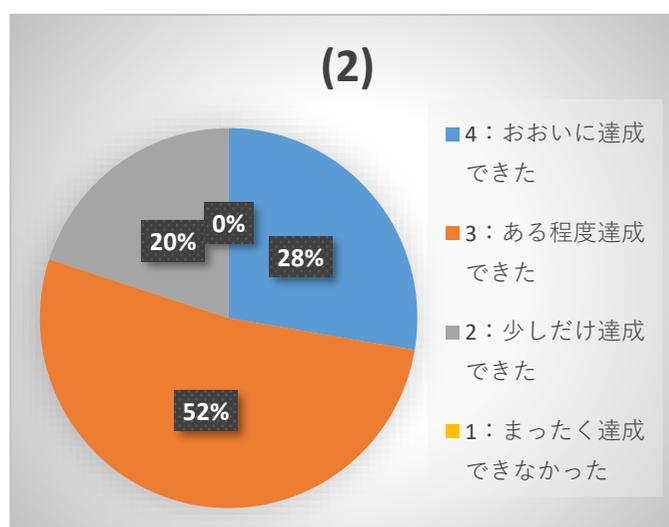
65



（2）時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	18
3：ある程度達成できた	34
2：少しだけ達成できた	13
1：まったく達成できなかった	0

65

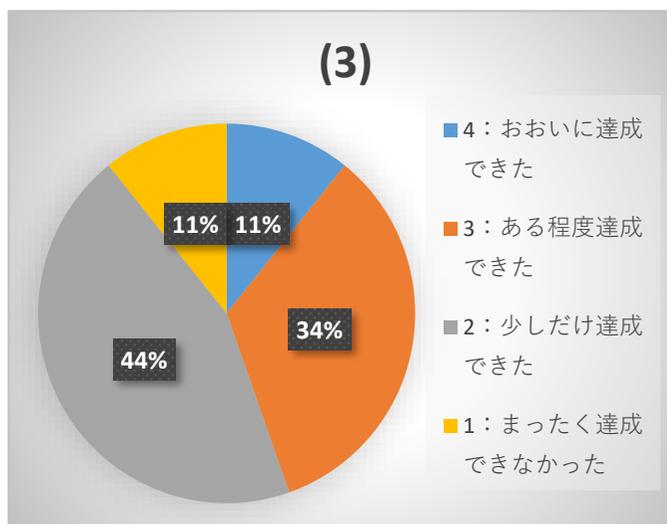


学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 児童文化学科

（3）現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	7
3：ある程度達成できた	22
2：少しだけ達成できた	29
1：まったく達成できなかった	7

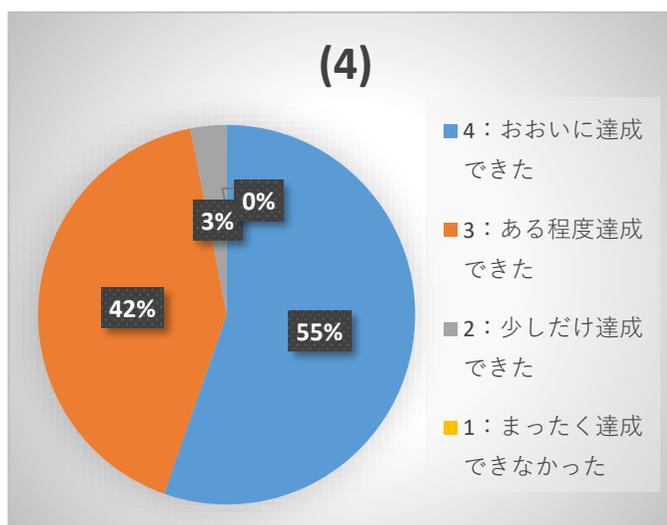
65



（4）人間の基盤となる子どもについて、文化・文学の見地から幅広い知識をもち、分析・考察する能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	36
3：ある程度達成できた	27
2：少しだけ達成できた	2
1：まったく達成できなかった	0

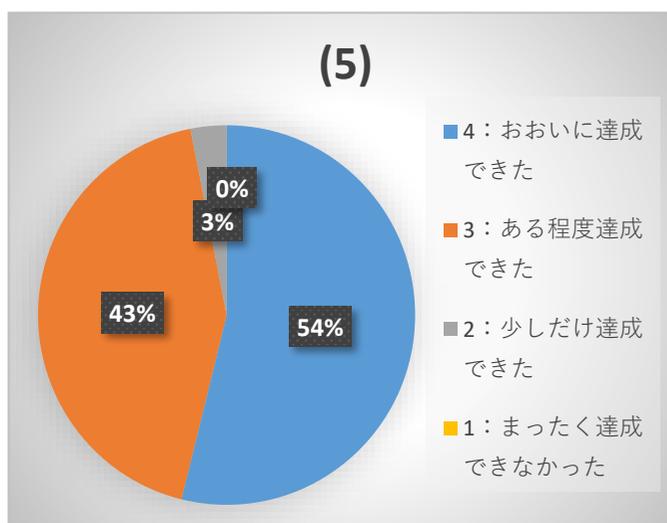
65



（5）子どもと大人が共有する文化の創造に向けて、知識とともに豊かな発想力・表現力を身につけている。

4：おおいに達成できた	35
3：ある程度達成できた	28
2：少しだけ達成できた	2
1：まったく達成できなかった	0

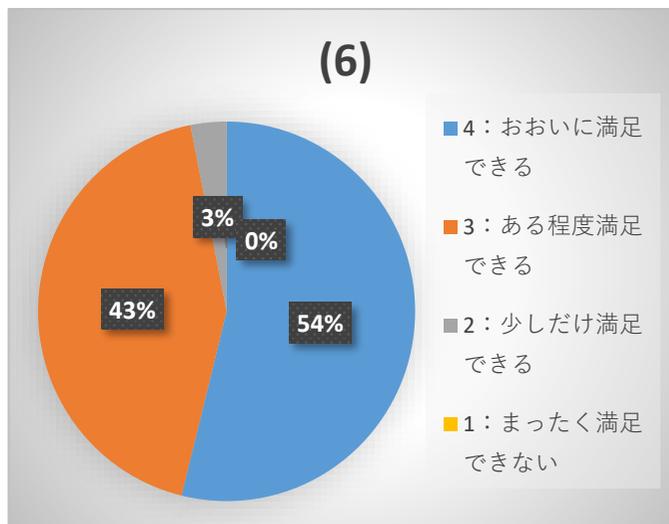
65



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 児童文化学科

(6) 大学での学修を通じて、あなたは満足のいく成果をあげたと感じますか？

4：おおいに満足できる	35
3：ある程度満足できる	28
2：少しだけ満足できる	2
1：まったく満足できない	0
	65



2019年度卒業時アンケート結果についての考察（児童文化学科）

問（1、2）で問われている人間形成とカトリックの精神、自立した女性となるための基礎能力については、「おおいに達成できた」「ある程度達成できた」を合わせて70%～80%の達成率であり、やや伸び悩んだ感があるが、実際に人間的な成長を実感できるのは、大学卒業後しばらくしてからなのかもしれない。

問（3）の外国語と異文化理解については、「おおいに達成できた」と「ある程度達成できた」を合わせて45%にとどまり、逆に「少しだけ達成できた」と「まったく達成できなかった」を合わせると55%にのぼる。児童文化学科の学生が外国語を通しての異文化理解に、あまり積極的でないことが浮き彫りになった。外国語の習得については得手不得手があるので高い達成率を目指すことは難しいかもしれないが、何らかの工夫で外国語の苦手意識が少なくなることを期待したい。

問（4、5、6）の児童文化学科の学生として身につけるべきことについて、「大いに達成できた」と「ある程度達成できた」を合わせて、いずれの間への回答も97%という、ほぼ100%に近い達成意識が明らかになったことは、学科としても喜ばしい結果である。児童文化学科のカリキュラム、授業内容、教員が提供するものを学生が良く理解し、努力による成長が見られたという実感が、このアンケート結果に表れているのだろう。達成感が得られなかった3%の学生については、何が原因であったか、詳しい意見を聞きたいところであるが、今後も更なる充実した学科となるよう務めたい。